国際交流体験記（平成 22-24 年度）

教育学部国際交流委員会では、本学学生のグローバル化を推進する事業として、アメリカコロラド州立大学に3年前から学生を派遣しています。平成22年度は、香川大学国際交流基金の支援を頂き、3名の学生、平成23年度には、Japan Foundationの**海外日本語教育インターン派遣事業**に応募し、1名の学生が採択されました。平成23-24年度は、日本学生支援機構の留学生交流支援制度Student Exchange Support Program（ショートステイ、ショートビジット）に応募し、「コロラド州立大学異文化交流プログラム」、「チェンマイ大学異文化交流プログラム」の２プログラムが採択されました。Japan Foundationインターンシッププログラムは、日本国内の大学・大学院等で日本語教育を専攻する学生を海外の日本語教育機関にインターンとして派遣に対して支援されるもので、往復航空券、滞在費、海外旅行傷害保険料、実習経費等が支給されるものです。また、留学生交流支援制度は、学生の双方向交流の促進のため、日本の大学等が実施する３か月未満の留学生受入れ、または３か月未満の学生派遣のプログラムに参加する学生を対象とした、平成２３年度新設の奨学金制度です。参加の学生には1ヶ月あたり8万円の奨学金が支給されます。学生交流の実施の状況は以下の通りです。

ＫＵＩＯ表敬訪問

派遣　2011年３月　香川大学学生３名（桂　千代、磯崎真希、花崎真衣）と引率教員1名（高木）

2012年３月　香川大学学生６名（植木愛美、井上愛、池田和樹、海老名真有美、西崎紗彩、野田健太）と引率教員2名（西原・高木）

2012年９月　香川大学学生５名（池田真由子、今村祥史、森本雅人、半澤伊吹、小林美南子）と引率教員2名（佐々木・高木）

受入：2012年５月　コロラド州立大学学生６名とMasako Beecken講師

2013年５月２７日～６月２８日　コロラド州立大学学生７名とMasako Beecken講師,

派遣事業は、コロラド州立大学での日本語の授業でのTA活動、コロラド州立大学附属プレスクール訪問体験、地元の小学校での交流活動、現地日本法人でのインターンシップ活動、州立大学学生主催パーティーへの参加、部活動での日本人留学生との交流、生化学科放射線学科などの研究室訪問、コロラドロッキー国立公園視察、州立大学付属施設でのフィールドワークなどを行いました。受け入れ事業では、教育学部長、インターナショナルオフィス長の表敬訪問、附属小学校・中学校合同授業、教育学部、工学部の授業参加、また、フィールドワークとして、うどん体験や、様々な施設見学、部活動体験などを実施しました。 コロラド州立大学への参加学生のレポートを紹介します。

インターンシップ実施学生レポート

私は大学入学時より日本語教育に興味があり、日本語関連の授業を取っていました。大学 4 年次の夏には、一学期間オーストラリアの小中高一貫校にて日本語教師アシスタントを経験し、卒業研究では「オーストラリアにおける日本語教師アシスタント」について研究しました。しかし、大学時代に勉強した日本語教育は成人の日本語学習者を対象にしたものであり、オーストラリアでは生かすことができませんでした。そのため、今回国際交流基金(The Japan Foundation)の支援を得て、インターンとしてコロラド州立大学に派遣されたことは、私にとって今まで勉強してきた教授法や日本語教育に関する知識を現場で実施できる大変貴重な機会となりました。

日本語クラスでの TA 活動

参加前、外国語学習のイメージとして一般的に「日本人は英語を話せないけど文法は得意」、「外国人は日本語を話せるけど読み書きは苦手」というイメージを持っていました。しかしながらコロラド州立大学の日本語学習者の日本語学習状況を拝見させていただき、そのイメージは大きく覆されました。日本語学習暦一年でも「話せる」「読める」「書ける」という状況で、簡単な日本語会話であれば問題なくすることができました。学年を重ねると、難しい言葉や専門的な言葉、四字熟語も理解されており、日本語母語話者とほぼ変わりなくコミュニケーションを取ることができました。今回授業を拝見させていただいてみて、それは学習の方法や学習態度、学習意欲に大きく違いがあるからなのではないかと思いました。

日本語のクラスに参加し、積極的に日本語を使って会話している様子を目の当たりにし、実践的な活動がより日本語の会話力を養うには必要なのだと感じました。実践ばかりでは基本がままならない野ではないかという疑問がありましたが、、文法等を実践で使いながら学んだり、漢字練習帳や宿題等の家庭学習を等を行ったりするなどの学習意欲の大きさから、その疑問はなくなりました。そして自分自身の学習方法を見直し、「英語を習得したい」という志を今よりも高く持ち、外国語学習に取り組まなければならない、と強く思いました。

今後も色々な国、色々な地域に行きたいと思いますが、4 月からは社会人となり、時間的にも学生の時のようには融通が利かなくなります。そのため、現在のような、海外留学という形ではなく、海外ボランティアや短期訪問という形で、様々な国を訪問し、交流を持てたらと思います。その中でもやはり興味のある日本語関連のボランティア等をする機会があれば、積極的にチャレンジしていきたいと思っております。このプログラムは日本語教育を学んでいる学生にとって大変有意義なものであり、今後も日本語教育を学んでいる後輩たちに受け継がれていくことを心から願っております。　　（植木愛美）

SSSV 訪問学生

今回はとても短い期間の留学であった。しかし得られた者はとても多かった。今回の留学をするまでは外国に行くことに抵抗があったが、今はその抵抗はとれている。大学生のような若者が話す英語は少し速

くて聞きづらかった。相手が話している内容が分かれば応答できる。リスニング力の向上を今後の英語の勉強をする時の最重要課題にするつもりである。そして私の英語力の向上が次の海外留学への関心を引き立てると思っている。

現地で何人かの日本人留学生がいて、体験談を聞くことも次の海外留学への関心を引き立てた。楽しいことや困ったことを沢山聞けた。自分の人生にとって有意義になるとみんな口をそろえて言っていた。

また、留学プログラムに一回でいいので企業訪問を組み込んであると海外留学に行きたい気持ちが強まる。今回の企業訪問はとても言い刺激になった。海外の企業と大学から言い刺激を受けるためにも次の海外留学に挑戦していきたい。（野田健太）

今回、コロラドへの留学を行ってとてもいい経験が出来た。コロラドでは現地の小学校と附属の幼稚園に訪れた。現地の小学校では、希望者に対して 1 時間目が始まる前に学校で日本語を教えていた。日本の学校では授業として外国語活動が行われるようになった。これはこれでいいことであると思うが、アメリカとの大きな違いは授業という強制的な形で英語を学習するか、児童の自主性で日本語を学習するかということである。

現地小学校でのふれあい活動

また、コロラドは寒暖差が激しいということは事前に先生のお話やインターネットで調べたことで分かっていたけど、実際に水曜日以外は気温が 20℃前後あったのに、水曜日だけは 1℃前後しかなく、文字で見るだけでなく、現地で体験して本当にこんなことがあるということを経験できたのも良かったと思う。

そして、コロラドは香川のように見ずに関して問題があり、ともに研究をしているというのを聞いて驚いた。いかにして高大な大地を潤していくかというのは大きな問題ではある。香川とコロラドでは広さが全く違うけど、少しでも役に立つことがあればいいなと思う。これから勉強していって卒業論文のテーマの一つにしたいと思った。コロラドは実際に訪れてみて興味を引くところが多かった。人も優しいし、香川との共通点の発見、また、ロッキー山脈で大きな褶曲を見た時には地球のすごさが感じられた。コロラドの水にはロッキー山脈が関係しているはずだからこの興味を深いものにしたいと思う。　（池田和樹）

コロラド州立大学との異文化交流プログラムに基づく学生派遣は，平成 22 年度の学生 3 名による試験的運用からから始まって，今年で 3 回目になりました。2013 年度の派遣も 9 月に実施する予定です。本年度は 2 名の大学院生が参加し、現地での調査研究を行います。また、受け入れ事業の方は 2013 年 2 月、教育学部で新しく留学生向けの 2 つの授業（日本研究・国際交流基礎演習）と日本人学生向けの海外研修に関する授業（異文化交流実践研修）を開講し、香川大学教育学部教員と、インターナショナルオフィス教員、コロラド州立大学教員が授業を担当し、2013 年 2 月には授業料不徴集（単位数互換）の実施細則も締結され、コロラド州立大学から、香川大学特別聴講学生として学生 7 名が 35 日間香川大学で日本語・日本文化を学びます。今後の交流のますますの発展が期待されています。

Sumitomo
Corporation of America
Summit Mining
International

We had visitors from Japan visit the Gifford site this week! The visitors coordinate with Teacher Miho to compare American and Japanese preschool education and maintain an international relationship between their university and CSU.